

歴史探訪

クラブ! 其の109

History Inquiry Club

文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

地域で受け継がれる偉人の業績

江戸時代、五代將軍徳川綱吉の元和元年(1681)、中山村のこと。凶作で苦しむ村人を救うため、中山村領主、旗本清水家の西山町の松林の葉や立ち木の払い下げを、地元代官に願い出たが許されず、江戸に常勤の領主、清水権之助へ訴えた庄屋がいました。これは正式な手続きをふまない訴えでしたので、この罪で当時の庄屋、河合伊左衛門・久右衛門は処刑されましたが、二人の行動は、村を救った勇氣あるものでした。



▲義民伊左久右衛の碑

明治6年、税や堤防修理などの負担が村の生活を圧迫し、再び中山村は危機に落ち入りました。この時も、村をあげて必死に活動したおかげで、西山町の松の払い下げ許可が下りました。昭和27年、地区内で計画された警察予備隊(現自衛隊)演射場の反対運動の成功も、彼らが守ってくれたものだと地域の方々は考えました。彼らの供養塔がある西湖院門前の碑は、きれいに管理され、感謝の気持ち伝わってきます。現在でも命日に当たる2月28日に、地域をあげて二人の供養が盛大に行われ、地元では「伊左久右衛」と呼び親しまれています。



▲清右衛門の顕彰碑

る場として、その権利をそれぞれに主張しました。田原藩は、いったんは野田村の主張を認めたにも関わらず、一転して赤羽根村の開墾を認めました。野田村にとっては受け入れがたいことで、不服とした野田村は寛文13年(1673)江戸の藩主に直訴しました。村人90名を送り込むなど数々の困難を乗り越え、寺社奉行、老中など幕府への直訴を粘り強く行い、主張が認められたのでした。しかし直訴が成功した替わりに、藩主の名にそむいた罪で、中心となった清右衛門は死罪、関係者12名は追放、村には罰金が課せられるなど多くの犠牲が払われました。

昭和25年、清右衛門は野田神社に合祀され、村を救った偉人として、昭和39年、野田地区で「義民清右衛門遺跡保存会」が結成されました。保存会は、墓地の整備や顕彰碑の建立、

『ひるわ山出入争動記』(闍目作司著)の発刊などの事業を展開し、清右衛門の顕彰を進めました。毎年4月15日には感謝祭が行われ、野田小学校では劇も演じられています。

中山の河合伊左衛門、久右衛門、野田の河合清右衛門らは、村人の生活を守るため、命を投げ打って行動しました。その行動に感謝し、300年を経ても地域でその業績が語り継がれ、過去の歴史と現在が無関係でないことに感激します。偉人の伝記本も私たちの心を打ちますが、彼らこそ、自らの地域を救った英雄といえます。身近な人でも、尊敬に値する人たちはたくさんいます。まずは足下から見直してみたいいかがでしょうか。

(増山)

今月の「表紙」

▼サンテパルクたはらのサンテガーデンでは、春の花リピングストーンデザインが満開。辺りは、まるでパステルカラーのじゅうたんを敷きつめたようでした。一面のお花畑もステキですが、私がこの時期にオススメしたいのは、浜辺に咲く海岸植物の花。ハマヒルガオなどのきれいな花が見られますよ。(〇)

「表紙の写真」サンテパルクたはら